

「歩いてみてわかるもの」

僕らの仕事は車での移動が主であるが最近、事務所から近いお宅への訪問はダイエットも兼ねて極力歩いて訪問するよう心がけている。肌に刺さるような日差しを浴び、タオル片手に利用者宅へ訪問している。

歩いて訪問するとご利用者宅までの道のりがよく分かる。「ここは車いすで移動するには注意が必要」や「道が細い割に車の通りが多い」などと感じるところが多い。実際にご利用者やご家族にモニタリングを行うと「〇〇(スーパー)まで行くところが自転車多くて怖い」「××医院まで行くのに道路がでこぼこしててね…」という声が多く聞こえる。

僕も歩いて移動しているためそういった声が理解できる。ご利用者やご家族の目線で話ができているということだろう。その目線をご利用者やご家族の不安を取り除けるような福祉用具の提案ができる。地域密着を掲げる事業所の強みとはこういう所なんじゃないかと思う。

(2017年9月)

